

学校だより 6月号

平成30年6月1日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

TEL 048 (548) 1004

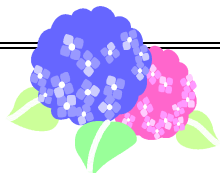
FAX 048 (547) 1467

URL

<http://koya-e.konosu.ed.jp>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



「思いやりの心」を育てる組体操 ～自らの「痛さ」や「怖さ」を乗り越える～



校長 池澤 道弘

5月26日の運動会には、ご多用の折にもかかわらず、多くの皆様にご来校いただき、ありがとうございました。小谷っ子の日頃の心がけがよいためか、青空のもと盛大に実施することができました。この日に備えて、芝生を最高の状態に仕上げてくださいました芝生保全会の皆様、様々な面でお手伝いをいただきましたPTA役員の皆様、おやじの会の皆様、その他関係者の皆様にこの場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

運動会は表現や徒競走、紅白対抗リレーなどの演技だけを披露するものではなく、係の仕事、気持ちの良い返事やあいさつ、大きな声援、きびきびとした態度など、学校のさまざまな教育活動を一日かけて皆様にご覧いただく、大きな学校公開であると捉えております。至らぬ点多々あったかとは思いますが、今後とも本校の教育活動にご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、今年の運動会はどの種目が一番印象に残ったでしょうか。全員が得点種目の「徒競争」、チームワークが鍵の「ブロック競技」や「学年競技」、代表選手のダイナミックな走り「赤白対抗リレー」、練習に一番時間をかけている「表現」、全校種目の「なかよし全員リレー」や「大玉おくり」など、人それぞれかと思いますが、私は「組体操」に特別な思い入れがあります。高学年のダイナミックな演技、静と動の美しさ、一糸乱れぬ動き等、「組体操」には、感動を呼ぶ要素が多々ありますが、それ以上に私は「組体操で培うことができる思いやりの心」に惹かれます。

ご存じの通り、組体操は人を乗せたり、持ち上げたりする演技があるので、その時には体の大きな子が下になり、小さな子が上になります。当然下の子は重いし、痛いし、苦しい…毎日の練習が筋肉痛と苦しさとの闘いです。でも、上の子の立場になってみると、とにかく「怖い」のです。下の子がぐらぐらしていたり、押さえる箇所が適切でなかったりすると、毎日の練習が落下の恐怖との闘いになってしまいます。

私も高学年を担当することが多かったのでたくさん経験しましたが、お互いが自分のことを考えているうちはうまくいかないものです。下の子は重くて痛いという苦しい気持ちを乗り越え、上の子が怖くないように頑張る。一方上の子は怖い気持ちを乗り越え、下の子の負担が少しでも軽くなるように頑張る。このお互いを思いやる気持ちが芽生えた時、見ている人を感動させる組体操になると思います。人間は弱いもの。「相手のことを考えて」と口にするのは簡単だけど、実行していくのはなかなか難しいものです。組体操を見事成功させた高学年に拍手を送るとともに、今後もさまざまな教育活動の中で「思いやりの心」を培っていきたいと考えております。皆様には、引き続きご支援くださいますようお願いいたします。

